

数理工学まちなか講座

数理工学科（工学基礎教育センター） 横井嘉孝

1. はじめに

平成18年度の工学部改組に伴い新しく「数理工学科」が発足することになった。「数理工学科の紹介」を目的に、「数理工学を身近に感じてもらう」をキャッチフレーズに、教員の研究紹介をかねた催しを、平成17年11月27日（日）10:00～16:00の日程で「まちなか工房」を利用して行った。

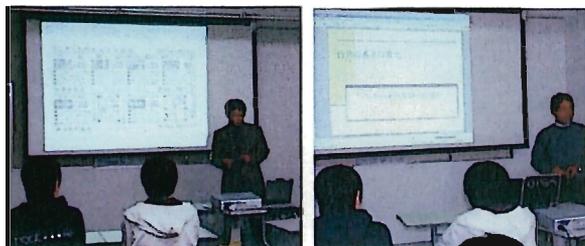
2. 実施概要

今回の行事では、まちなか工房展示スペースを利用して、次の3つの催しを行った。（下絵はフラクタル図形をデザインに利用した広告案内用のチラシ）



(1) 講演会

13:30より講演2件（高田教授「中古マンションの相場」、大島教授「待ち行列の長さの変化」）を行った。それぞれ、統計や確率といった数理工学の概念、手法が日常の様々な現象や情報を解析、説明するのに役立つのかを身近な例を用いて紹介した。



(2) 数理工学紹介の展示

数理工学を紹介するための展示として、「RSA暗号」（角田講師）、「ランダムウォーク」（和田助教授）、「フラクタル」（内藤教授）、「データ解析」（高田教授）などの研究紹介をいくつかのブースに分かれて行った。それぞれコンピュータなどを利用して、最先端の研究

から身近な話題まで数理工学の間口の広さと奥行きを深さを実感してもらえよう展示を行った。



(3) アートカレンダー製作実演

「ランダムウォーク」、「フラクタル」に関する展示では、研究紹介とあわせて、研究対象の芸術性を取り入れた「アートカレンダー」作りを参加者の皆さんに体験してもらった。美しい出来栄えを皆さんに感激してもらった。

以上の催しの様子は翌日の西日本新聞熊本版で紹介された。

3. 実施後の感想

決して多いとは言えない参加者数であったが、参加いただいた方々には、数理工学の実用性、楽しさ、美しさをアピールできたものと思う。そういう意味では実りある催しとなったので、18年度以降もできれば継続して実施したいと考えている。ただ、今回学科として初めての取り組みであったこともあり、事前のPR、展示の方法、開催時期の問題など、今後さらに検討しなければならない点もいくつか見つかった。

4. おわりに

実施に当たっては、まちなか工房浅野様や各研究室に所属する学生など多くの方々のご協力を頂いた。心よりの感謝の意を表したい。また、工学部の研究・教育と市民との接点を提供する「まちなか工房」が今後さらに活用されていくことを期待したい。